―――個人事例―――

友だちとともに、少しは意欲を持って活動に参加する子

井崎　典子

はじめに

不慣れなこと不得意なことに対して拒否的傾向のあるK児は、本来持っている力を、その時期その時期に十分発揮できないままにきている。彼を取りまく周囲が受容的だったことや、本人の内気で素直な性格もその要因となっていると思われる。一方では、幼児期に繰り返し聞かされた絵本の世界や童謡は、平仮名を読む力などとなってK児の中に確実に残っている。

そこで、まず、慣れたこと好きなことに集中して取り組ませることで心の安定を図りながら、除々に新しいものにも挑戦させていきたいと考えた。そして、初めは援助を受けながらでも、繰り返し行うなかで、少しでも意欲や自主性が芽生えてくることを願って実践してきた。

1．プロフィール

(1) 生育歴

昭和58年５月20日生　　８歳５か月　小学部２年生　男子（第２子）

昭和63年４月　K町立H保育所入所

平成元年４月　K町立H幼稚園入園

平成２年４月　本校小学部入学

(2) 諸検査による実態

- 遠城寺式乳幼児発達検査（平成３年５月実施）

移　動	手の運動	基本的習慣	社会性	発　語	言語理解
3：8	2：9	3：0	2：3	3：4	2：6

２歳３か月～３歳８か月の発達を示している。運動・感覚の発達に比べて社会性（対人関係）に落ち込みが見られる。

- ＭＥＰＡ……右図（平成３年５月実施）では、現在第５ステージを通過中である。ただし第４ステージでまだクリアしていない項目もあり、特に対人関係では第３ステージにもクリアできていない項目があり、落ち込みが見られる。

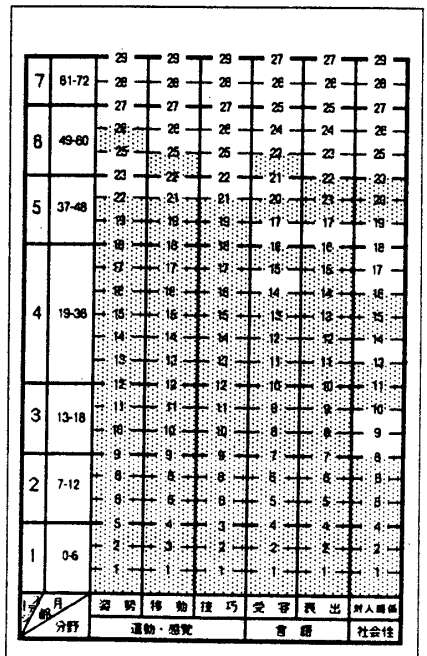

図１　ＭＥＰＡプロフィール表

(3) 行動特性

- 不安感や依存心が強く、新しい環境に適応しにくかったり、未経験なことへの取り掛かりに抵抗を示したりする。
- 手指の機能が劣っており、スプーンや箸が上手ににぎれない。また口を開いているので食事中の食べこぼしが多い。
- 友だちとの関わりを避け、一人遊びを好んでする。身近な大人との関わりはいやがらず、抱きつ

いて甘えたりする。

- 恥ずかしがりで、相手を見て話したり、人前で話したりするのは苦手である。言葉は豊富だが、単語の繰り返しが多く、同じ答えを何度も要求したりする。
- 歌が好きで、食事中等の満足した状態の時、手足をばたつかせながら大きな声で歌う。

2．取り組みの構想

以上の実態をふまえ、少しでも友だちと関わりを持ちながら、そして少しでも意欲や自主性を持って活動に参加できるように、指導仮説を次のように設定した。

(1) 指導仮説

個人目標　友だちとともに、少しは意欲を持って活動に参加する子

つけたい力
- 学校生活に見通しを持って、少しは自分から取り組もうとする態度
- 少しは友だちと関わって生活し、友だちと一緒に何かをする楽しさを感じとる
- 粗大運動や手指の機能の向上
- 衣服の着脱や食事等の基本的生活習慣に関わる力

仮説　K男にとって、繰り返すことは心の安定を図る大切な要素であり、繰り返しの中に喜びや楽しみを見い出す子どもであるともいえる。K児にとって興味や関心のあること、それは取りも直さずこれまで繰り返し行ってきた好きなこと、慣れたことなのだが、それらの活動に集中して取り組ませることで、自主性や意欲が培っていけるのではないか。また一方では、不慣れなことに対する一押しや引き上げも必要である。指導者が援助したり、時には叱咤激励しながら取り組ませ、そして続けていくことで、K児の中にある拒否感が消失し、楽しみへと変わっていくのではないかと考えた。

(2) 指導の手だて

- K児が楽しめる活動を生活の中に多く準備し、意欲的にそして集中して活動できるようにする。
- 押し上げ、引き上げることで不慣なこと不得意なことにも取り組ませ、できることを増やしていくことで自信を持たせたい。
- 教師が援助しながら、友だちと関わって遊ぶ機会を多く設け、友だちと同じ場所にいるという関わり方から、少しずつでも一緒に遊べるようにと進めていきたい。
- がんばり賞などの近い目標を設定し、K児が意欲的にそして見通しを持って取り組めるようにする。

3．指導の実際

(1) 遊びを通しての実践

《遊具サーキット》

K児は手指の操作がぎこちなく不器用である。箸やスプーンが上手に扱えないし、小さい物をつまむ時も、指先は使わずに親指と人差し指のつけ根ではさみこんでいる。箸の持ち方については給食時に常時指導しているが、まず粗大運動を充実させ、腕の筋肉を強化したり、心肺機能を高めたりすることで手指等の微細な運動を向上させることをねらって、遊具を使った遊びを試みた。

K児にとって外遊びといえば三輪車か自転車に乗ることで、前庭の固定遊具はそばを通り過ぎるものでしかなかった。そこで、初めは強引に誘い出し、“遊具サーキット”と名付けて、全部の遊具に挑戦させることを目ざして取り組んだ。

ジャングルジムでは、一段目で鬼ごっこをし、次に二段目に追いこんで一周させ、次は三段目で手を添えて支えてやるというように一段ずつ上がらせていき、とうとう湖山池が見える一番上まで上がることができた。揺れることが不安で、ブランコやシーソーには拒否感が強かったが、一緒に乗って抱えこむとか、揺れに合わせて、K児の好きな歌をあやすように何度も歌って聞かせることで次第に緊張がとれて笑顔も見られるようになった。そして「おもしろかった。またしようね。」と約束を迫るようになった。

《洗濯挟みを使った遊び》

もっと直接的に指先を強化する試みとして、7月から洗濯挟みを使って遊んだ。箱の中に洗濯挟みを入れておき、それを箱のふちにはさんでいく遊びである。これも初めのうちは押しつけられた仕事でしかなかったが、繰り返すうちに速くできるようになり、それを賞賛されることで少しずつ意欲が見られ出した。指先の使い方も段々力強く変わってきて、薄い箱から厚いかごの縁をはさむことへと、課題が高度になってきた。

洗濯ばさみに挑戦

遊具遊びにしても洗濯挟みの遊びにしても、集中して遊んでいるK児の姿に引かれるように他の子どもも真似をして遊びだし、そこに担任を仲介としてではあるが友だちとの関わりが少しずつ持てるようになった。

(2) 生活単元学習「たなばた発表会」の実践

歌やお話の大好きなK児にとって、劇遊びは楽しめる活動である。今年のたなばた発表会では、「大きなかぶ」の劇に取り組んだ。『うんとこしょ、どっこいしょ』の言葉の繰り返しや、かぶを引き抜く動作の繰り返し等は、単純だけれども十分に楽しめるものだし、順番につながっていくことで友だちを意識できるという、低学年にふさわしい題材である。

この中でK児は“犬さん”を演じ3番目に登場した。台詞を覚えることはお話好きのK児にとっては得意なことで、時には友だちの台詞を先取りしたりする場面も見られた。そして動作も、初めは友だちの動きを見ているだけだったが、個別に追いこんで練習することで、発表会当日にはかなり大きな動きでかぶを引っぱることができた。

昨年の経験をふまえ、少しは見通しが持てていることもあって、出番を待つ間や他クラスの劇を見る間も、自分の席に落ち着いて座っていることができた。

発表会で犬を演ずるK児

(3) 合同体育・なかよしタイムでの実践

《しっぽとり》

合同体育で取り組んだ「しっぽとり」のゲームは、単純でしかも勝ち負けのおもしろさがあり、どの遊びの段階の子どもにも楽しめる要素が含まれている。

4月に行った時のK児はＡＢＣのＣ評価で、ゲームは楽しめていなかった。けれども全く無関心ではなく、目の端で友だちの様子をそっと見ているといった感じだった。無理に引き込むのではなく、他の子どもの働きかけも得ながら、少しずつ遊びに誘いこんでそれを繰り返すうちに、K児も遊びのルールを理解し、少しずつではあるが参加できるようになっていった。友だちのしっぽに手を出すところまではいかないが、全力で走り回って逃げることができるようになった。そして時には声かけに応じて、先生のしっぽに手を出す場面が見られた。何より、楽しめている時のK児の仕草（ぴょんぴょん跳びはねながら大きな声を出す）が何度も見られたことは、「しっぽとり」に対して拒否感がなくなっていることの何よりのしるしであろう。今後さらに繰り返すことによって、友だちのしっぽに手が出ていくのではないかと期待している。

《すもう》

相手に触れることもしなかったが、しだいに相手の手にふれ、そして組み合うことができるようになった。プップ山というかわいいしこ名をもらって、番付表の位置も少しずつ上がり、相手を一押しできるようになった。

4．今後の課題

学級の誰よりも早く登校してきて、体操服が後ろ前だったり裏表だったりしてやり直すこともあるけれど、一人で着替えて、大好きなおもちゃの車に乗って友だちを迎えているK児。汗を吹き出させながら、600mのマラソンコースを一人で走りきったK児。お母さんの送り迎えつきの登下校から、中学部のお兄さんとペアのバス通学へと挑戦しているK児。わに歩きを卒業して、ちよっぴりだけど顔つけもできるようになったプール学習でのK児。ゆっくりとではあるが、確かにたくましく変わりつつあるK児の姿がある。友だちとの関わりも、積極的に仲間遊びができるM児や友だちとの関わりが持てるY児の働きかけに助けられながら、少しずつ強くなってきている。

今指導していることがすぐに成果として表われなくても、きっとK児の中に力となって蓄えられる。その蓄えをできるだけ深く豊かにするために、より適切な指導を重ねていきたいと考えている。そしてK児のできることを増やし、自信を持って少しでも自主的に物事に取り組んでくれるようにと願っている。